

## 統合から3年、シナジーにより業績右肩上がりのC X O 重視するのは「エンジニアリングの力で笑顔あふれる未来へ」という経営理念

千代田エクスワンエンジニアリング代表取締役社長

### 内藤 崇之氏

2023年4月に、旧千代田工商、旧千代田システムテクノロジーズ、旧千代田テクノエースが統合されて設立された千代田エクスワンエンジニアリング(C X O)。統合以後、3年が経過したが、この3年間、売上高・利益ともに右肩上がりです。そんな好業績を支えてきたのが、統合後に社員が議論して作った経営理念「エンジニアリングの力で笑顔あふれる未来へ」だ。その経営理念のもと、協力会社との「Win-Win」の関係を構築するために、その呼称をビジネスパートナーに改め、常にリスペクトの気持ちを持って接するようにしている。今年4月にC X Oの新社長に就任した内藤崇之氏に、統合3年間の成果と今後の取り組みについて聞いた。

**ENN**：今年4月1日付で社長に就任されました。抱負を聞かせてください。

**内藤**：旧千代田工商、旧千代田システムテクノロジーズ、旧千代田テクノエースの3社が2023年4月に統合されて、千代田エクスワンエンジニアリング(C X O)になってから3年が経過しました。統合後に、社員みんなで議論しながら決めた、当社の経営理念が「エンジニアリングの力で笑顔あふれる未来へ」です。

私は3月末までは、親会社の千代田化工建設の建設本部長でしたが、C X Oの社長に就任が決まり、初めて見た物がこの経営理念でした。その時に思ったことが、「基本的なことをしっかりとやっということ」です。

例えば、「3社が統合されて設立されたが、一体感生まれているのか」「お客様の設備を安定的に操業するための縁の下力持ちでいるか」などについて知りたいと思いました。

そこで、伊藤卓前社長から経営を引き継いで、社員のモチベーションを高

く保ちながら、引き続き、社会に貢献する会社として着実に運営したいと考えています。

#### 経営理念「エンジニアリングの力で笑顔あふれる未来へ」を大切に

**ENN**：この経営理念は、統合後、旧3社の社員が議論した末に決めたものですね。

**内藤**：3社ともに、現場で磨いてきた技術があるでしょうし、3社が一緒になるには絆が大切です。絆は、社内だけではなく、ビジネスパートナーである施工業者やメーカーとも結んでいく必要があると思います。経営理念には、これら重要な点が簡潔に表現されています。

この経営理念を見て、社員みんなが思っているこの思いを引き続き経営判断の基準としていきたいと考えています。

**ENN**：2023年4月に統合されて3年間が経過しました。統合の成果はいかがですか。

**内藤**：2023年の会社設立以来、毎



年、業績が向上しています。2025年度も過去最高益になりました。

旧3社の最高益を単純に合算しても、それを上回る利益を上げています。これは、統合されたことで総合エンジニアリング企業として一步を踏み始め、効率化が進んできた結果だと思います。統合して目に見える成果が上がっています。この成果は、旧3社の方々が横同士のコミュニケーションをしっかりと取ることで、交流が活発に行われたことによりもたらされたと思います。

これらの業績は2024年に策定した中長期経営計画「ビジョン2030」を上回ったため、今年度から、新たに策定した「Beyond Vision 2030」に取り組んでいます。

ここでは、①岩盤分野の強化、②新規分野の拡充、③生産性向上、④組織再編、の4点に取り組めます。

これらに組み込み、2028年度に営業利益率12%を達成することを目標としています。

**ENN**：「岩盤分野」や「新規分野」とは、何を意味するのですか。

**内藤**：「岩盤分野」とは、シャットダウンメンテナンス(SDM)を含むメンテナンス分野と医薬品等のライフサイエンス分野です。カーボンニュートラルを推進する時代になっていますが、ある石油の元売りさんは「石油の事業は引き続き重視する」と言ってい

ますが、実際にお話をさせていただくと、プラントの安定操業を非常に大切にしていられっしゃいます。そのためのお手伝いをやっていきます。

「新規分野」とは、例えばバイオ分野です。

これらに取り組むうえで、生産性向上や組織の再編が必要になります。

これまでは、事業部が旧3社をそのまま持ってきたような形だったのですが、全体最適を進め、より効率的な組織へと統合していこうと考えています。

## 競争力強化にDXを活用

**ENN**：現在、資機材および人件費が上昇していますが、政府はしっかりと価格転嫁をするように訴えています。この状況にはどのように対応されていますか。

**内藤**：政府方針に呼応して価格転嫁に対応しています。自社の処遇においても3年間連続で物価上昇を上回るペースでベースアップを続けてきました。その結果、離職率は5.4%から2.5%に下がりました。60歳以上の社員においても、現役時の給与の85%のレベルをお支払いしています。

政府が重視するデフレ脱却にも対応してきましたが、永遠にコストが上がり続けることは考えられません。価格転嫁にも限界があると思います。いずれ、競争力が重視される時代になってくると考えています。

**ENN**：競争力の強化には、何が必要になるとお考えですか。

**内藤**：DXが必要だと考えていますが、ただこれを推進すると、「システムありき」になって、業務が置いてきぼりになる可能性があります。そこで業務改革推進部を設置しますが、この部長には重責を担ってもらいます。

**ENN**：DX化には、どのように取り組まれていますか。

**内藤**：最新テクノロジーを活用した社会インフラのDXソリューションを提供するセンシロボティクス社のシステム「ゲンコネ」を活用して、SDMでも使い安くカスタマイズしました。

またAIエージェントである「Lightblue」の運用も始めました。これにより、社内ナレッジの活用などの効果が得られます。

**ENN**：設計においては、いかがですか。

**内藤**：BIMをはじめとする3D設



内藤 崇之(ないとう たかゆき)氏

1964年5月30日生まれ。東京理科大学大学院にて建築を専攻し、修士課程を修了後、1990年に千代田化工建設に入社。建設部配属後、中東向けの海外プロジェクトに従事。ロシア向けヤマルLNGプロジェクト コンストラクションダイレクターや米国向けキャメロンLNGプロジェクト プロジェクトダイレクターなどを経て、建設本部本部長、業務本部本部長を歴任。2024年 同社常務執行役員 に就任。2026年4月より千代田エクスワンエンジニアリング代表取締役社長。

計の活用を進めています。千代田グループには、千代田フィリピンがありますが、3Dモデルの使い方が非常にうまい。千代田フィリピンの社員に本社に来てもらって、日本の仕事を日本語で手伝ってもらっています。

## 協力会社をパートナーとして意識

**ENN**：協力会社との関係については、どのようにお考えですか。

**内藤**：工事協力会社との関係は「Win-Win」の関係構築できないと長続きしないと考えています。このため、当社は協力会社ではなくて、ビジネスパートナーとして意識しています。社内では「BP」と呼ばせてもらっていますが、千代田グループが組織している協力会社も以前は「千代田工事協会の」と言っていたのですが、現在は「千代田工事共創会」という名称に変更しました。全社

に、「協力会社には、リスペクトをもって接するのが第一だ」ということを徹底させています。ですから、CXOの社内では協力会社という用語は使われていません。

そして、機器ベンダーさんや設計のお手伝いをさせていただいている会社さんに対しても、同じように接するように心掛けています。パートナーシップ構築宣言に掲げている通り、全てのビジネスパートナーとの共存共栄の構築を目指しています。

**ENN**：協力会社からも千代田グループの評判は良いですよ。

**内藤**：千代田グループには以前、製缶機器の製作をサポートする千代田プロテックという会社がありました。そのリソースはCXOが引き継いでいます。ですから、CXOには「ものづくり」を大切にしている文化があります。この精神はこれからも引き継いでいきます。

**ENN**：ありがとうございます。